

第2期 堺市北区政策会議 第2回 会議録

日 時：令和6年6月13日（木）10時から11時40分まで

場 所：堺市北区役所3階302会議室

出席者：

【構成員】（敬称略）天野隆次、魚谷守信、加我宏之、坂江祥衣、長尾永子、中田萌々果、野田誠子、羽根恵子、坊農豊彦、吉村登志子（以上10名出席）

【事務局】鈴木敏文（区長）、原田明美（副区長）、市川行則（区域活性化調整担当部理事）、辻本多美子（北保健福祉総合センター所長）、花田智夫（新金岡地区活性化推進室長）、出野俊之（自治推進課長）、光齋かおり（北保健福祉総合センター総括参事役）、羽野敏博（地域福祉課長）、宮田大志（子育て支援課長）、竹内香奈子（子育て支援課相談支援係長）、山本美佐子（北保健センター所長）、樋口年秋（堺市社会福祉協議会北区事務所長）、藤本浩一（堺市社会福祉協議会北区事務所地域活動推進係長）、本池茂（企画総務課長）、至田義朋（企画総務課課長補佐）、増川哲（企画総務課企画係長）、佐藤裕子（企画総務課）

会 議：公開会議

傍 聴：傍聴者数0人

1 開会

2 区長あいさつ

○鈴木区長 皆様、おはようございます。北区長、鈴木でございます。

本日は本当にお忙しい中、北区政策会議に出席賜りまして誠にありがとうございます。また、平素は北区行政、並びに市行政に多大なるご理解・ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございます。

この区政会議でございますけれども、皆様ご存じのとおり、北区の実情及び特性に応じた政策形成を進め、特色ある区行政を実現するために「北区みんなのまちビジョン」の基本方針である魅力発信・発掘・創出、それから子育て、最後に防災、これら3つのテーマについて、これまで様々な視点から大変有意義なご意見・ご提案をいただいております。事務局より提案しました子育て・防災に関する取組がおかげさまで現在順調に進んでおります。ここまで実施した取組を本日は振り返りまして、本日、また構成員の皆様からご意見をいただきまして、来年度の令和7年度末、これまでが今のビジョンの計画期間ですけれども、ここまで計画期間いっぱいまで更なる効果的な取組になるようにブラッシュアップを進めてまいりたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

また、本日は次期ビジョン、再来年度になりますけれども、そちらの改定も見据えまして、今年の秋頃から実施を予定していますアンケート調査についても説明をさせていただきますので、そちらもよろしくお願いいたします。

私の後ろ、横並びに職員がおるわけですがけれども、こちらは北区の行政をマネジメントしている管理職、課長が今出席しております。今までの皆様のご意見等をいろいろな形で北区の取組に反映してまいりました。本日いただくご意見も併せまして、これからも工夫をしながら北区民のため、よりよい行政、北区の取組となりますよう取り組んでまいります。

以上、簡単ではございますが、会議の開催に当たりまして、私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 会議報告

《事務局から配布資料の確認、会議の公開についての説明、傍聴人数の報告》

4 議事

○加我座長 皆さん、おはようございます。大阪公立大学の加我でございます。

今日は第2期の第2回の政策会議になってございます。今週ぐらいから非常に暑くなってきた、本格的な夏を迎えようとしていますが、梅雨入りはこっちのほうはまだですかね。少しうっとうしい時期にもなりますけども、お体に十分ご注意ください、本日も活発な意見交換をしたいと思います。

先ほどもございましたけど、本日は子育てに関する取組、防災に関する取組については、これまで北区役所を中心に展開されてきたことをご報告いただきながら意見交換ということになろうかと思います。

更に、次期のビジョン策定に向けてということで、アンケート調査項目もご確認いただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、案件の1つ目にまいります。子育てに関する取組について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（増川企画係長） 第1期の北区政策会議で、事務局より提案しました子育てと防災に関する取組を昨年度実施しましたので、その報告と実施によって見えてきた課題、課題解決に向けた取組、今後の新たな展開についてご説明いたします。

まずは、子育てに関する2つの取組です。最初に資料1をご参照ください。子ども自身への支援としまして、生きる力を育むプログラム「わくわく教室」を令和5年度の夏休みに実施しました。学齢期に達したばかりの小学1年生を対象に、夏休み中の週1回・全3回のプログラムで実施。子ども自らが考え、判断し、決定、解決できる力を育むため、地域の子ども食堂で大学生ボランティアの協力を得ながら、様々な体験活動を行いました。子ども食堂で実施した体験活動の内容は1ページ下に、体験の様子の写真を一部ですが、2ページ上部にお示ししております。実施してみて良かった点ですが、アンケートで参加者と大学生ボラ

ンティアとともに普段できない活動ができて良かったという意見がありました。また、事業をきっかけに子ども食堂と参加者や子育て支援課のつながりができて良かったという意見もありました。

3ページにお進みください。一方で実施して見えてきた課題がありました。1つは受入人数15人に対し、参加希望者が56人あり、多くの方が参加できませんでした。2つ目は、子どもへの接し方について戸惑ったという声の実施後のアンケートで大学生ボランティアから上がりました。

次に、これら課題解決に向けた取組です。1つ目は、受入人数拡充に対応できるよう、子ども食堂に対して事業説明会を実施する予定です。2つ目は、体験活動を支援する子ども食堂支援者及び大学生ボランティアに対して、事業の趣旨や子どもへの接し方について説明する機会を設ける予定です。3つ目に、子どもの成長を促す体験活動となっているかについて、子ども食堂と十分に協議を行った上で実施したいと考えております。これらの準備をしたうえで、今年度の夏休みは昨年度から受入枠を2倍にして実施する予定です。

以上が、子どもの生きる力を育むプログラムの振り返りと今後の展開になります。

続きまして、同じく昨年度実施しました子育てに関する取組、子育ての孤立を防ぐ地域のつながりの醸成について、ご説明します。資料2をご参照ください。子育てのつながりづくりを地域SNSピアッツア上で実施いたしました。地域SNSピアッツアとは、ダウンロードして登録すれば、誰でもエリア限定で情報の発信、閲覧ができる無料のスマホアプリです。子育ての不安感や孤立感の解消が図れるよう、このアプリ上でのやり取りを通して、子育て世帯同士でつながりを持ってもらおうと、北区子育て応援マップの企画など子育て世帯の利用促進に向けたPRを実施いたしました。まず、北区子育て応援マップの企画では、アプリ内の地図上に地域の子育て支援の場である子育てひろば、子育てサークル、子ども食堂、また子育て交流の場となる公園の位置をピンで示し、地図上のピンを選択すると開設日時など施設概要を紹介しております。そして参考資料1としてお配りしています子育て世帯に向けたチラシを作成し、北区内の就学前教育・保育施設利用者さんや転入者に配布を行うことで、子育て世帯の登録者を増やし、子育てに関する情報交換の活性化を図りました。

資料5ページにお戻りください。これらを実施して見えてきた課題として、PRの都度、登録者は増加するものの、投稿の伸びが鈍化している状況がございます。課題解決に向け、まずは登録者の一員である北区役所がピアッツア上での積極的な情報発信を継続して行い、投稿活性化を図りたいと考えております。そして、子育て世帯同士の情報共有について、新たな取組を考えています。1つ目は、参考資料2としてお配りしています「先輩パパ・ママはこうして乗り越えた子育ての悩みQ&A BOOK」のPRです。この冊子は、子育て世帯の交流イベント時に参加者から出ました子育ての悩みや工夫など、子育て中の生の声を基に制作しております。パートナーに面と向かっては言いにくいけど分かってほしい子育ての悩

みですとか、子どもの年代ごと特有の悩みについて、解決のヒントなどをまとめているものです。多くの子育て中の皆さんに参考にしてもらえるように冊子の配布だけでなく、掲載情報を各種媒体でお届けしています。

資料6ページにお戻りください。次に、子育て中の生の声を継続して集める取組です。子育て交流イベントでの聞き取りに加えまして、ホームページやピアッザなどで子育ての不安や工夫について、常時募集を行いたいと思います。寄せられたご意見は、皆さんの子育てのヒントにしてもらえるよう整理しまして、各種媒体でお知らせしていきます。そして今月、6月号の広報紙から「みんなの子育て体験談」という連載コラムをスタートしております。皆さんからお寄せいただいた参考にしてほしい体験談の紹介と、読者の皆さんから体験談を教えてもらえるように呼びかけをしております。子育てに奮闘する仲間のリアルな声を共有することで、子育ての孤立感、不安感の解消を図ってまいります。

以上が、第1期会議を踏まえて実施してきました子育てに関する2つの取組の振り返りと今後の展開になります。

事務局からの説明は以上です。

○加我座長 ありがとうございます。まずは子育てに関する取組、今般子育ての悩みQ&A BOOKをはじめ情報発信をされているということです。

では、皆さんからご質問、または場合によっては関わっていらっしゃる方々もいるかと思いますが、感想等をいただければと思います。

○天野構成員 私もあまり深く関わっていないので具体的には皆さんの方がよく知っておられるのではないかなと思うのですが、二、三点、疑問な点がございまして、お聞きしたいと思います。

まず1点、子ども食堂です。非常に全国的に今広がっていて、いいことだと思います。ところが、当初の計画と違って、支援を必要としない子どももたくさん来ておられるようです。また、実際に食事をします。小学校、中学校の給食については非常に丁寧な対応をしています。食べることでアレルギー症状等が出ないように栄養士が考えて、子どもによって食べてはいけないものを先生を通じてきちんと徹底されています。こういう配慮は子ども食堂でできているのでしょうか。問題が起きた時の責任の所在が不明確ではないかと思っています。間違っているかもしれませんが、皆さん方のご意見を頂戴したいと思います。

○魚谷構成員 子ども食堂というのは、天野さんがおっしゃったように、本来の姿が当初あったはずですが。ただ時代の流れやいろいろな状況から子ども食堂を使っているいろいろなことをやっということ自体は、間違っていないと思うのですが、今おっしゃったような心配もあります。

もう一つは、北区では子ども食堂が20あるとお聞きしております。今回イベントとして子ども食堂をお使いになって、たくさんの応募に対応できるように人数を倍に増やされるの

はいいことですけれども、20もあればもう少し活用できる子ども食堂さんもあるのではないかと、もちろんいろいろな制約があると思いますが、その辺をちょっとお聞きしたいと思います。

○加我座長 まず子ども食堂、もともとは福祉的な観点から始まった。

あともう一つは、子どもたちの交流の場所が公園であったり学校であったりということに加えて、集まる場所としてやっていただいているということもあろうかと思います。

長尾さん、その辺りで今感じられていることはいかがですか。

○長尾構成員 百舌鳥小学校区で子ども食堂を2017年からしております、長尾と申します。

私が始めたのは8年前になるのですが、子ども食堂の形として、支援が必要な家庭を対象としたサポート型と、皆で御飯を食べようという共生型という2種類があって、堺市はどちらかというと皆で食べようというところから始まって、うちもそのスタンスですずっとやっています。皆で楽しく食べるというところをたくさんの方に知ってもらい来てもらうことで、その中でサポートが必要な子が来たら、サポート機関につなぐということをやらせてもらっていて、実際にこれまでに何人かのサポートが必要な子どもに出会いました。でもサポートが必要な子だけが来る場所とPRしていたら、やはり子どもたちは来ない、親御さんもそんなところに行かなくていいとなるとと思います。皆が一緒に行こうよという中でサポートが必要な子連れれてきてくれたり、気になる子に気づけたりということがあります。子どもの友達が制服のスカートの裾が外れたままずっと縫ってもらえていないとか、御飯をちゃんと食べられているかなと気になる子を一緒にうちの子ども食堂に連れてきてくれることがあります。この楽しい場所を知ってもらって、高学年になれば自分1人でもまた来られるし、ほかの友達も誘って来られるというかたちでつないでくれるので、このまま変わらずやっていきたいなと思っています。

○加我座長 ありがとうございます。子育て支援課から情報提供などはございますか。

○事務局（竹内相談支援係長） 子育て支援課の竹内と申します。場所は3か所で少ないというご意見を以前もいただいていたのですが、拡大に向けて事業説明会を既に実施しました。かなり多くの食堂さんに来ていただいたのですが、子ども食堂さんは食堂に専念している方ばかりではなくて、いろいろな事業、例えばデイサービスをほかでやっておられて、毎月1回しか開設していないですとか、学童保育をやっておられて、夏休み中はちょうど学童の子たちが来るので、この時期の実施が難しいなどというご意見をいただきました。令和6年度に向けて開催場所の拡大を考えていたのですが、結果として受けていただいたのは令和5年度と同じ3か所でした。3か所だけだったのですが、受入人数を各食堂で5人から10人に拡大させていただいて、いろいろなお子様が来ていただけるように継続して取り組んでいきたいと思っています。

○加我座長 ありがとうございます。これについて中田さんは関わられていたり、お友達がこ

こに参加されていたりしていますか。

○中田構成員 モモの木子ども食堂さんに私は関わらせていただいている、今度のわくわく教室にも行きたいなと考えています。

○加我座長 ありがとうございます。

子どもの生きる力を育むものの一つとして「わくわく教室」があるのだと思いますが、わくわく教室だけが最たる成果ということではないと思いますので、子どもの生きる力を育むプログラムに関する調査や情報収集をしていただく必要があろうかと思います。

このプログラムの内容を聞いていますと、サポーターといいますか、ホスト側が非常に大変だと思います。100人も200人もというのは受け入れられないことだと思いますので、場合によっては別の団体、グループで同じような取組、もしかしたら金岡公園であったり大泉緑地であったりというような場所であるということもあろうかと思いますので、情報発信と情報収集をしていただければと思います。

○長尾構成員 今年もわくわく体験を、うちの子ども食堂つなぐ場でさせてもらいます。去年は「生きることって食べること」みたいなところで、食べることをメインに考えてやっていたのですが、去年させてもらって、生きる力って何かなと改めて考えた時に、自分の意見とか、やりたい夢を人に伝えることが生きる力を育てることにつながるのではないかと思います。今年も学ばせていただきました。今年も近くに福祉施設があるので、そこのおじいちゃん・おばあちゃんに御飯をおもてなししようということで、全3回ある中で、1回目にどういったことを皆でやるか考えて、2回目に招待状を作って渡して、3回目に福祉施設の方に一緒に来てもらって御飯を食べるという企画を考えています。わくわく教室の予算があってできることですので、本当にありがとうございます。また報告させていただきます。

○加我座長 ありがとうございます。

では、子育て関連について、皆さんからほかにございませんでしょうか。

○天野構成員 先ほど私が質問をした回答を子育て支援課にお願いしたいと思います。子ども食堂に子どもを集めることはそれでいいと思うのですが、当初の理念から外れているのではないのでしょうか。これを市として明確にするべきだと思います。

○加我座長 確認させていただきたいのですが、子ども食堂は市の施策ですか。これは個々それぞれがボランティアでやっているのですね。だから個々それぞれの理念があって、個々それぞれの目標があってやっている。そのあたりを子育て支援課、市はどうお考えなのかということだと思います。

○天野構成員 そうです。たくさんの方に来てほしいということは、それでいいと思います。何も間違っているとは思いません。ただ先ほどから申し上げているように、食物アレルギーを持っている子どもに対してどういう配慮をしているのか、現状見えません。結果的に、大きな事故につながるようなことになった時に、誰が責任を取るのですか。ボランティアのチ

ームでやっているのだから、市は知りませんでしたではいけないと思います。やはり市としてきちんと方針を出して、このようにしてくださいということを言うべきと思いますが、それが今明確にされていないのではないのでしょうかということを知りたいのです。

○吉村構成員 担当は社協さんですね。

○加我座長 社協さん、お願いします。

○事務局（樋口社会福祉協議会北区事務所長） 社会福祉協議会の樋口でございます。社会福祉協議会で子ども食堂と関わりがございまして、我々の立場からご説明させていただきたいと思うのですが、担当の者からご説明申し上げます。

○事務局（藤本地域活動推進係長） 堺市社協の藤本でございます。天野構成員からのご質問をいただいて、回答になるかどうか分かりませんが、堺市社会福祉協議会で子ども食堂の後方支援をさせていただいていますので、いろいろな課題や対策も含めてご説明させていただきます。

子ども食堂の活動は、それぞれの団体がボランティア活動の中でやっています。その中で子ども食堂ネットワークというのをつくってまして、その事務局をうちが担っています。天野構成員がおっしゃったとおりで、困っている方に来てもらうための子ども食堂でなければいけないというお声を聞くのです。けれども困っている方だけが集まる食堂であるならば、「そこにはもう行かんと、あそこへ行ったら、あんたは困っている子やでと言われるからやめておき」ということになるわけなのです。堺市の子ども食堂ネットワークの中では、皆が集う子ども食堂をやる中で、困っているなという子を見ることができています。それを子育て支援課、保健センター、また各セクションにつないでもらって支援に入っている、また支援が必要な子どもを見つけて、そこから支援につながっているというケースがあります。ただ支援が必要な子どもばかりを集めるための食堂になったら、非常にハードルが高くなってしまって、そこに行く子が誰もいなくなるのです。だから皆が集まる場所としてさせてもらっています。これが行政やいろいろな支援機関につながって対応できている、成果が出ていますので、これを続けていきながらいろいろな悩みを抱えた子、家庭を救っていただけるような場所になったらいいなと感じています。

もう一つ、天野構成員から衛生管理について問題提起がありました。この対応の一つとしては、保険に入らせていただいています。子ども食堂ネットワーク、今堺の中で102団体が入っている、堺市社協がお手伝いをさせてもらっているネットワークに入ってもらったら、保険に加入してもらうことになります。施設所有管理者賠償責任保険、施設入場者傷害保険というのに入りまして、もし食中毒や何かがあった時には、その保険が適用されます。もしものの時の責任ということについては、各活動をする団体の代表者の責任になってくると思います。各団体の皆さんには安心して活動ができるように、賠償保険、傷害保険に入らせてもらっています。これは子ども食堂に対して応援をしてくれる皆様のご寄附により、活動団体

の皆さんが保険に入ることができるようになっています。子ども食堂を応援してくれる団体、企業が多くて、市民の方からも皆で応援して、もっとこの活動を広げていってほしいというたくさんの声をいただいています。その中で子ども食堂を運営させてもらっていて、「これは食べてはいけないから食べさせないで」という親御さんとのやり取りなど、アレルギー対策というのも個別に調整をしながら、各食堂でやっていただいています。管理栄養士がいるわけではないので、カレーばかりのところもあれば、また栄養バランスを考えながらお弁当を作ってくれるなど各食堂によってそれぞれなのですけど、その中で講習を受けた食品衛生管理者という方を1名必ず置いていただいています。保険と管理者、またいろいろな体制整備をしながら、子ども食堂の運営をさせていただいていることをご理解いただきたいと思います。よろしくお願いします。

○天野構成員 理解しました。

○事務局（藤本地域活動推進係長） ありがとうございます。

○天野構成員 我々がやっているいろいろな活動でも、保険の話は必ず出てきます。万が一の時はちゃんと保険で対応できますよと、私もいつも皆さんに言うのです。それでも、対策として「保険に入っています」だけでは通りません。事前にできる対策を十分にチェックするべきということを申し上げている。それをボランティアばかりに任せるのではなくて、行政としてもきちんと明示すべきと思っています。よろしくお願いします。

○加我座長 よろしいでしょうか。この子ども食堂ネットワークでの研修会や、また他府県他市町でこういうネットワークというものはあるのですかね。個別で行われている取組を互いにより良いものにしていくための情報交換の場、または公的な支援があるということは非常に良いことだと思いますので、保険だけでなく、取り組んでいただければと思います。

確かに天野構成員がおっしゃるように、連合自治会で非常にご苦労いただいている対応もあろうかと思えますし、もう一つはボランティアの各グループの対応ということで、いろいろなものがあるかと思えますので、行政の役割、それから個々グループの役割を明確にして取り組んでいただければと思います。

○吉村構成員 吉村でございます。よろしくお願いします。令和5年度に実施したこのわくわく教室ですね、3か所それぞれで特色を考えられてやっておられて、長尾さんからまた今年度の取組のお話も聞かせていただきました。生活体験であったり、自然体験であったり、そして何よりも人と関わる社会性の中で実践を通じて学んでいることがすごく素敵だなと思いました。20か所もある子ども食堂でいろいろと理由はあるのだと思うのですが、今私も即答はできませんが、受入枠を拡充できる何か良い方法はないかなと思います。

子ども食堂だけではなくて、それ以外の活動、行政もいろいろと区でやっている取組もありますし、就学前にはなるのですが1年生とつなぐというところでは、私たち民間の園が取り組んでいることの中から何かできることはないのかなと思いました。園庭開放だった

り子育て支援関係については、園も取り組んでいますし、これもいろいろと事情がありますので、全園ができるとは限りませんが、折角令和5年度に実践されたことを次の年度も継続するということですので3か所だけじゃなくて、ほかの団体にも声かけをしてもらえばできるところがあるのではないかなと感じました。やはり子どもたちの五感を活用したリアル体験というのは、本当にとっても大事なことでと思いますし、いろいろな切り口でされているところが素敵だなと思います。

あと、子ども食堂は開始してから随分と長くなると思うのですが、今は貧困といっても物金の貧困だけではなくて、心の貧困も見えない部分で非常にあるように思われます。だからこそ人とのつながりの中で何かを体験するということはとても大事なことで、先ほど長尾さんがおっしゃったように、自分たちの意見を反映する体験というのは、本当に小さな時から必要なことだなと思いました。そういう体験ができる場所がたくさん増えたらいいなと、また何かできることはないのかなと思います。子育てひろばなど就学前の居場所は、本当にいろいろと皆さんが考えて工夫してくださってたくさん増えたと思うのですが、小学校へ行ってからの居場所が本当に数えるほどなのはとても残念に思います。

待機児解消から4年目を迎えたのですが、次小学校へ行って学童はどうなのかなと、そうなってくると地域や区の中での居場所の1つが子ども食堂になったり思うのですが、小学生の居場所がなかなか見えてこないのがとても残念なので、このわくわく教室を通して何かできる方法はないのかなと思いました。

最後に、これを子どもが楽しみながらやっているというのが本当に素敵だし、そんな中から自己受容ができるような人になっていくのではないかなと感じました。皆で工夫して、何か1つでもできることがあったらやりたいなというふうに思います。

○加我座長　ありがとうございます。続いて、ございませんでしょうか。

○野田構成員　私は子ども食堂とか、未就園の子がいますのでサークルにもよく顔を出させてもらっています。今小5の一番上の子が行っていた時は、いろいろなサークルをはしごしている同じようなお母さんがいて、いろいろなところでよく会うことがあって、どこのサークルも20人ぐらいが集まってにぎわっていたのですね。最近サークルを何件か行かせてもらって気づくのは、利用者さんが減ってきていることです。待機児童の問題が解消されて、保育園に入れるようになったのかなという感じもするのですが、利用する人がすごく減ってしまって、結果、サークルの運営がちょっと難しくなっている感じがあるのですね。年間のスケジュールを子育て支援課に出して、毎月公民館などの場所をお借りして、何人かのママさんが自分のお子さんを連れてお掃除してお片づけをして帰るという感じで運営されているのですが、そのお世話をする方の引継ぎ手がないという問題が出てきていて、お子さんが幼稚園に入っても、引き継ぐ人がいないから同じお母さんが継続して運営されていて、そういった方の努力で成り立っているのですが、利用する人が減ってきていることの課

題が見え隠れしています。あと未就園児と小学生の両方のお子さんがある方の課題として、夏休みとかに入った時に、下の未就園児を連れていく場所がなくなります。お兄ちゃんたちを留守番させないと子育てひろばに入れられないのです。上の子を連れていくと危ないという問題があって入れないので、小学校が長期の休みになると、途端に行き場所がなくなるということも課題と感じています。

あとちょっと疑問というか、次の防災の話にもつながってくると思うのですが、どの小学校でも、災害にあった時を想定して保護者の人にお迎えに来てくださいという訓練をされていると思います。もし、保護者が両方とも働いていて、通勤で遠くにいる場合に、電車とかが止まったらお迎えに行けないと思うのです。訓練の時は先生と一緒に下校ができますけど、いざ本当に災害になった時に、ずっと小学校で残って待つておくのかなと思います。未就園の子が自宅にいる人も小学校が避難場所になるはずなので、共働きでお迎えに来られない小学生と、地域の未就園児がいる家庭や帰宅困難になったという想定職員と一緒に小学校で避難をする訓練ができると良いなと感じています。

○加我座長 ありがとうございます。

○坂江構成員 3点、わくわく教室とピアッザ、それとさっき野田さんがおっしゃった子育てサークルについてですが、まずわくわく教室は、小学1年生に限っても大幅に定員オーバーということで、本当に需要があるのだなと感じます。内容を見ても本当に充実していて、やっている方々が本当に努力してやっていらっしゃるのが伝わってきます。最終日に防災体験というのもすごく良いと思います。子どもが習ったことを大人に教えるということもあるでしょうし、「今日防災体験の施設に行ってきたけれども、もし昼間に地震があったらお父さん、お母さんはどうするの」、「待ち合わせ場所を決めておいたほうが良いと聞いたけれどもどうなの」とか、そういう会話が家庭の中でできたら、地域全体の防災意識を高めることにもつながってくると思いますし、プログラム自体はすごく良いことをやっていると思います。

見えてきた課題のところで、大学生のボランティアから子どもへの接し方が分からなくて戸惑いがあったということですが、これは逆にすごく良いことなのではと思ひまして、年の離れた相手と関わる機会が少なくなっていると言われる昨今ですので、実際に交流して、子どもと関わるのってこういう難しさ、面白さがあるんだということを体験してもらうというのは、大学生にとっても大変学びになることだと思います。まさに大学生にとっても生きる力を育てることになっていると思います。事前に子どもとの接し方について説明する機会を設けるとありましたけれども、事前だけではなくて、「今回こんな困ったことがあったよ」、「こんな時にほかの人がどうしていたよ」というようなことを話し合っ、その戸惑いを学びに変えていく事後のフォローみたいなのもあればより良いと思ひました。

ピアッザのお話がありまして、先日私、使ってみたのですよ。譲り合いのコーナーで使わ

なくなった子ども用の椅子を赤ちゃんがいらっしゃるご家庭にお譲りすることができて、お互いにとても嬉しいやり取りができました。これは北区ではなくて堺市の管轄になるかと思うのですが、堺市の粗大ごみの出し方のページの一番上のところに、「ごみとして出す前にリユースを検討してみませんか」と書いてあるのです。そこでピアZZをアピールすることはできないでしょうか。そこを見る方は、まさに今家具とかベビー用品とかがあるけれど、捨てるしかないかなと困っていらっしゃる方だと思うのです。ピアZZは北区だけでなく、東区、中区、堺区も使っていますし、そこでピアZZというアプリがあるよ、ここで譲り合いというページがあるよというPRは結構パワーがあるのではないかなと思いました。リユースという点では堺市は既にジモティーさんとも連携されていますが、個人の感想ですが、ジモティーは利用者がすごく多い分とにかく情報の流れが早くて、一件一件の情報がざーっと流れていってしまう。反面、ピアZZは、一つ一つの投稿がちゃんと見られているというような感触がありました。ジモティーもピアZZもそれぞれメリットがありますので、堺市でアピールしていけば、市全体でピアZZの利用が広がっていくのではないかなと思いました。

企画総務課さんのアカウントはフォロワーが今45人ということで、ちょっとこれは寂しいなと思います。このピアZZのアプリを紹介するチラシはとてもよくできていると思うのですが、企画総務課さんのアカウントのアピールがないですね。せっかく北区に配布しているのですから、北区のアカウントでこんな役立つアカウントがあるよということを紹介していったら、まず情報収集アカウントとしてよく開いてもらえるアプリにしていったら、それから投稿を伸ばしていくという順番ではないかなと思います。投稿に至る道筋として、まずは役に立つアカウントをフォローしてもらうというのが必要ではないかなと思いました。

それから、子育てサークルについてですが、子育てサークルを応援マップとかでアピールしてくださっていて非常にありがたいです。金岡南校区の子育てサークルのお世話係をしていまして、さっき野田さんからお話がありましたけれど、私のサークルでは利用者の方は今年度に入ってぐっと増えました。前年度はそうでもなかったのですが、なぜかこの春から、子育て支援課さんがアプリなどでアピールしてくださっているというのもあったか、私のサークルでは人が増えている傾向にあります。ただやはりどのサークルさんも、次年度のお世話係の人がなかなか見つからない、どうしようねというお話はなされています。どこのサークルも今の代表の方がすごく頑張ってくれているという感じになっています。もちろん現役の未就園児を抱えた親御さんの手作りでやれると良いですけど、かなり難しい状況になっていると思います。私は金岡南校区のサークル、以前はほかにもあったとお聞きしているのですが、今は私のいるサークル1つだけになってしまっているのですね。需要は本当にあると思いますので、ただ野田さんもおっしゃっていましたが、赤ちゃんを抱えてサークルの企画も考えて、来ている人の様子を見てというのなかなかすごく難しい

です。子育てサークルの取組の紹介と一緒に、未就園児を抱えた親御さんでなくても関わってみませんかみたいなことを広報できると良いなと思いました。こういう活動で、こういう人が必要とされていますということを、もっと言ってもいいのではないかと思います。

○加我座長 実際に子育てをされていて、また利用されていてのご意見をたくさんありがとうございます。ほか、ございますでしょうか。

○中田構成員 子どもとの関わりで、大学生ボランティアをやらせていただいているのですが、先ほど坂江さんがおっしゃったように、大学生にとっても学びになっているなと感じることはすごくいっぱいあって、関わらせていただいている子ども食堂さんでは、様々なイベントをされていて、去年は子どもたちが使うピザ窯を作ったり、皆で遠足に行ったり、普段することのない活動をたくさんやらせていただいて、子どもとの関わりも難しいと感じることもあるのですが、そういったことも含めてすごく良い経験をさせていただいているなと感じています。

あと、最近また別の民間の学童さんでボランティアとかアルバイトをやらせていただいているのですが、そこでも子どもの生きる力を育むいろいろな取組をされていて、そういったところもすごく魅力的なので、いろいろな人に知ってもらえたら良いなと思います。受入人数の拡大で子ども食堂さんの数が増えなかったということですが、学童でも結構運営でいっぱいいっぱいだろうなと感じます。こういったイベントで3日間は負担が大きいと思うので、1日だけとか負担を減らす形にしたら受入数を増やすことにつながるかなと思いました。

○加我座長 ありがとうございます。わくわく教室の運営についてご参考いただければと思いますし、またわくわく教室だけでなく、子どもの生きる力を育む取組は多数あるかと思いますので、ご紹介いただければと思います。

では、話は尽きないかと思いますが、もう一件もご紹介いただいてまた意見交換をしたいと思いますので、次に案件2の防災に関する取組の振り返りについて、事務局より説明をお願いします。

○事務局（増川） 続きまして資料3、「無関心層の防災意識を高める取組」をご参照ください。防災意識が低い層にも関心を持ってもらい、防災に取り組むきっかけとなれるように、北区みんなで防災ホームページを今年3月に立ち上げました。参考資料3-1がトップページになります。6つの項目ごとに様々なコンテンツを掲載しています。主要なものをご紹介します。

まず参考資料3-2、「暮らしている街を知ろう」の項目です。北区で想定される災害などについて、既存の北区防災マップとハザードマップのデータを活用しまして、WEB上で見やすく紹介しています。

次に参考資料3-3、「備えておく心安心」の項目です。何から始めていいかわからない

方に向けて、取り組みやすいステップや、負担なく取り組めるローリングストックを紹介するほか、非常食を日常に取り入れませんかという提案をしています。

そして参考資料３－４、「子育て世帯の皆さんへ」では、北区に多く居住する子育てファミリー向けまして、家族で一緒に取り組んでいただけるよう、防災士ママさんが子育て中の視点で分かりやすくお伝えしています。

また、参考資料３－５「マンションなどにお住まいの皆さんへ」では、マンション等共同住宅の比率が高い北区において、お住まいの方に向けて、特有のリスクとその対策を伝え、被災しても自宅が安全な場合に在宅避難をしてもらえるようにご案内しています。

次に参考資料３－６「災害時に活躍できるように」では、地域の防災活動のご紹介や、大阪公立大学ボランティア大学生のインタビュー、能登半島地震被災地派遣職員のレポートなどを通して、元気な方が災害時に支援側に回ってもらえるように発信しております。

最後に、参考資料３－７、「防災意識を高めよう」では、企業・団体の防災コンテンツや図書館で借りられるお勧め本、無料受講できる防災講座、小さいお子さん向けのクイズなど、防災に興味関心を向けてもらえるようなコンテンツを集めております。

資料の１０ページにお戻りください。続きまして、これらのコンテンツをホームページに掲載するに当たり、工夫したポイントをご説明いたします。北区のホームページの閲覧は、モバイル端末からが７６％となっており、スマートフォンで見やすい内容を意識しました。区別防災マップや災害ごとの防災チラシ、子育てファミリーのための防災ブックといった既存の紙媒体は、ホームページでは、これまで全ページ一括のＰＤＦファイルを掲載しておりましたが、スマートフォンで適切に表示されないことがないよう、また、ファイルを一つ開けずに情報を閲覧できるように、冊子掲載情報をホームページ形式に変換し掲載しました。また多くの画像を散りばめて、スマートフォンで気軽に興味を持って見てもらえるページを構成するよう意識しました。各画像は、視覚障害をお持ちの方にも内容が伝わるように、読み上げソフトに対応したテキスト情報を挿入しております。

次に、子育て世帯に向けて新たなコンテンツを制作しました。防災士ママさんと協力し、これまで防災ブックと親子で参加できる講座により啓発をしてきたところですが、子育てに忙しい方がいつでもどこでも防災情報に気軽に触れてもらえるようにと、新たにＹｏｕＴｕｂｅ動画を制作し掲載しております。

続きまして、関連リンクの紹介です。さらに情報が知りたくなった方が深掘りして調べやすいように、堺市ホームページと外部サイト両方からのお勧めページを随所でご案内しております。そして様々なコンテンツの掲載には、多くの企業・団体のご協力が欠かせませんでした。掲載の承諾をいただいたページリンクやコンテンツの掲載により、動画やレシピ、過去の災害の記録をする資料などで閲覧者へより響く魅力的な防災情報の掲載ができました。

資料１２ページにお進みください。一方で、多くの情報を掲載することによって生じる課

題への対応が求められます。最新情報への方針確認や見せ方の見直し、掲載内容の精査など、点検を重ねながら改善を図ってまいりたいと思います。

それでは、今後の新たな展開をご説明いたします。北区広報紙で北区全世帯にホームページ開設をお伝えしたところですが、今後認知度をさらに上げるため、多くの方の目に触れ、防災意識を向けてもらうのに効果的な場所でQRコードを掲示する予定です。また、コンテンツ追加などホームページ更新の都度、広報紙やSNSなどでお知らせし、ホームページの来訪者を増やしたいと思います。追加コンテンツとしまして、今年度2つの企画を実施予定です。1つ目は、防災デイキャンプです。キャンプ系Y o u T u b e rを講師に迎えまして、キャンプを楽しみながら防災知識を習得できるイベントを開催予定です。イベントの様子を撮影・編集することで、イベント参加者以外の方に向けても、Y o u T u b e動画で広く啓発したいと思います。

2つ目は、我が家の防災アイデアコンテストです。各家庭で防災に継続的に取り組んでもらえるよう、お勧めしたい楽しく防災に取り組むコツ、工夫についてSNSを活用して募集いたします。多くのアイデアを集められるように、参加者にとって魅力的な優秀賞品を用意したいと思います。投稿の中から皆さんに参考にしてほしい防災アイデアをホームページなどで発信します。

そして、防災の取組を実践に移してもらうため、2つの啓発を考えています。1つ目は、自主防災組織活動への参加の輪を広げる支援です。各校区で実施されている様々な自主防災組織の活動をPRすることで、地域住民の賛同者を増やし、活動活性化を支援します。また、地区防災計画の策定に向けた活動の様子を紹介することで、地域の防災意識向上につなげます。

2つ目に、出前講座により積極的に地域に赴き、参加者の防災意識に合わせて行動に移してもらえるようお話をします。講座では、能登半島被災地派遣職員からも、実際に被災地を見て感じたこと、備えの重要性について写真などを交えて説明いたします。

防災に関する取組の振り返りと、今後の展開につきまして、事務局からの説明は以上です。
○加我座長　ありがとうございます。

ではこの防災に関する取組について、皆さんからご質問・ご意見を受けたいと思います。
いかがでしょうか。

○野田構成員　この防災のホームページ、すごく良いものを作っていただいたなと見ていて思いました。この全体の内容を見てみると、基本的には無関心層に向けてというのもあったと思いますが、自助という点ですごく強く掲載がしてあるのかなと感じたのですが、問題になるのがこの次の共助の部分ですね。「マンションにお住まいの方に」というところは多少共助も入ってきていると思うのですが、自宅避難でも小学校などの避難所避難でも、お水が止まるわけですから、共助の部分がかなり必要になってくると思います。マンション

もやはり水が止まったら、復旧まで1週間とかと言われるから、結局水の備蓄も尽きてきて、どこかに取りに行くことになると思うのです。そういった場面で共助が必要という時に、すごく混乱すると思います。避難所運営とかもすごく問題になってくると思います。もちろん自助を啓発していくというのは非常に大事なことはあるのですが、共助が必要な時に誰かがリーダーにならないといけない、知識を持っている人がいないといけないという点で、区役所でも単発の講座などイベントはすごく開催してくださっているのですが、防災について一通りのことを学んだ上で避難所の運営であるとか、実際の現場で動けるような知識を持った防災士みたいな人が各校区に居るとか、やはり活躍される自治会の中で共助が必要な時に誰が指揮を執って運営していくんだというマニュアルのようなものを作ることが必要になってくると思うのです。それを区役所など行政の力も借りながら、1月から2カ月、月に1回か2回かずつくらい防災を通して学ぶ講座みたいな場が必要になるのかなと思います。なので、防災キャンプとかもすごく良いのですが、そういうのも含めてリーダー的な人を養成するとともに、リーダーになった人も一緒に運営に参加するとか、学びもしながら実践の練習も兼ねるみたいな場をつくるようなこともしていただけたいかなと思います。リーダーを作ることが、いざという時に混乱が少しでも減って、スムーズな動きになるきっかけや助けになるかなと思うので、共助をフォローしていただくようなアイデアも出していただけたらなと思いました。

○加我座長　ありがとうございます。関連していかがでしょうか。

○坊農構成員　先ほど野田さんがおっしゃっていたことはもっともだと思ひまして、やはり先ほど区役所さんからも、地区防災計画に力を入れるということだったのですけれど、私は地区防災計画の専門でありまして、やはり共助というのは本当に大切だと思いますので、もう少し「みんなで防災ホームページ」でもっと共助につながるような内容も盛り込まれたらいいのかなと思っております。

あとは、「みんなで防災ホームページ」のいろいろと内容を拝見させていただいて、とても充実していて、それぞれにもっともなことがあるので、初めてアクセスされる皆さんが、どこを見たらいいんだろうとならないように、キーワードなどで検索をして、自分の目的のところにぱっと行けるような工夫もあつたら良いのではないかなと思ひました。

○加我座長　どうぞ。

○天野構成員　防災に関しては永遠のテーマなのです。特に自治連合会としては、大変な苦勞をしています。先ほど、野田さんから話がありましたリーダーの養成は、現在は連合会が主体でやっています。全部皆さんがボランティアで動いていて成り立っていて、一生懸命やってくれています。防災ホームページに掲載されているのは確かにこのとおりだと思うのですが、防災を行動に移すまでの課題、現状について出ていません。私は毎日のようにそれを体験しています。年に1回どこの校区でも防災訓練をやっています。この防災訓練も、先ほ

どもお話があったように、毎年参加者が減っています。防災訓練は、皆さん方の地域のためにやっていて、参加しないと万が一の時にどうするのが分からないから参加してくださいをお願いします。うちの校区では、23自治会のうち参加するのは大体8割、会員の8割が出てくれたらいいのですが、会長さんだけしか参加しないところもあり、こんな状況がずっと続いています。私が「自分のために参加してください」と申し上げると「忙しいから参加できない」と言われますが、それで済ませてはいけません。防災は自分のためにやっていないといけないという意識がまだまだ欠けています。一生懸命やっても、なかなか自治連合会だけの呼びかけでは難しい。したがって、行政と一体となってやっていかなければいけないという気持ちで今取り組んでいます。今年春でしたけども、小学4年生の子どもを対象にしまして、防災訓練をやりました。4年生全員が参加してくれ、とても喜びながら取り組んでいました。参加者の子どもから「またやってよ」という意見もあり、次回もやる予定にしています。小学校と今年は更に中学校でやる計画をしています。参加した子どもには「今日やったことを帰って、お父さん・お母さんに言ってください」と伝えています。防災の重要性を皆さんからお父さん・お母さんに教えてあげてくださいと言っています。そうすると子どもは「分かりました」と大きな声で返事してくれ、非常に嬉しく思います。この課題は一遍には解決しません。我々一生懸命日々やっていますので、これからも徐々にでもご理解をいただきたい。北区には15の校区があり、各校区に自治連合会があります。自治連合会には会長さんがおられますので、地域の防災についてお問い合わせいただいたらいろいろなことに協力させていただけると思います。よろしくお願い申し上げます。

○加我座長 ありがとうございます。続いて、関連していかがでしょうか。

○羽根構成員 ありがとうございます。羽根と申します。前から申し上げていたのですけれども、やはり子どもから防災教育を始めていかないといけないと思います。なかなか無関心な大人に関心を持たせるということは難しいので、教育の場で取り入れてもらうのが一番手っ取り早いのかなと思うのと、できれば学校側も協力して、授業参観などで親子一緒に防災について考えられる場があれば、もっと広がっていくかなという気がします。

すごく素敵なホームページを作ってください、よくできたなと感心して見ていたのですが、やはりこれを見に行く人がどれだけいるかが課題になってくるし、高齢の方はここにはたどり着けない。高齢の方はテレビとか新聞などで情報は得ていると思うのですが、若い世代はもうテレビも見ないし、新聞も読まないし、スマホだけが情報源になってくる。そうすると興味のある情報しか取りにいかなくなってしまうので、そこにどうやって入っていくかというのは、機会がある度に何か目につくようなところに持っていけないのかなと思います。

私たちのマンションが北区の企画総務課さんの協力も得て、今年の2月に総務省の防災まちづくり大賞を受賞し、マンションバリューアップアワードという防災部門で1位の賞をい

ただいたのですけれども、そういうことも住民の方にPRして、関心を持ってもらうために、ポスターを貼ったり展示会したりいろいろとしています。防災まちづくり大賞の選考時に視察に来られた教授の方からも、ここのマンションだけではなく水平展開をしてほしいということ言われましたので、校区や同じ共同住宅のマンションの方などにノウハウを伝えることや、共助できるところはしていきたいと思っています。単一のマンションで広げるというのがなかなか難しいので、行政の方の協力を得て道筋をつけていただけるようなことがあれば、私たちもほかの方からの情報も得られますし、こちらから提供できる情報もあるかと思えますので、その辺をまたご検討いただけたらと思います。

○加我座長 どうぞ。

○魚谷構成員 今羽根さんがおっしゃったように、防災に関する意識を子どもたちに持つってもらうというのが一番の早道ではないかと思えます。もう一つは、この「みんなで防災ホームページ」を私も見させていただきましたが、内容が充実しております。ただ、どれだけの皆さんがこれを見ていただいているかと、実はWEBとか、それからチラシや広報なども非常に大事なのですけれども、関心がなかったら皆さんは見られないですね。このホームページの一番下に北区役所で防災展を開催というコーナーがあって1回だけ開催されたのだと思うのですが、関心を持ってもらうために良かったと思います。防災グッズに加えて能登半島地震の被災状況のパネル、地震が起こって災害が起こったらどんな状況になるんだということを皆さんに認識してもらうのと同時に、実際に起こったらどうしたらいいかを啓発している。共助も大事ですが、自分が助からなきゃ共助ができないと、だから自助に関して、今自分たちがすぐできること、例えば水を蓄える、食料を蓄える、いろいろな方法の啓発をエントランスホールでやっていただければ、区役所には平日にたくさん人が来られますので、わざわざホームページを見るよりも、来たついでに見ていこうかという、これも非常に大事だと思います。できれば頻繁にテーマを分けて開催していただければ良いのではないかと思います。もしもマンパワーが足りなければ、北区には地域活動団体あるいはボランティア団体などいろいろなボランティアがありますので、その中から何か手伝っていただける方がたくさんおられます。私が10年ほどボランティアの相談コーナーで北区の事務所にいましたけれども、コロナの前はボランティアをしたいという方がたくさんおられました。高齢者が中心ですけれども、子どもたちもおりました。高校生とか大学生も親御さんと一緒に来て、何かボランティアをしたいという方がおられましたので、ボランティアの層はかなり厚くなると思います。そういう地域の資源を活用して開催できると良いと思います。

○加我座長 ありがとうございます。

○魚谷構成員 それからもう一つ、北区ボランティア連絡会の役員をしているものですから、去年から役員会に諮りまして、防災に関する講座を開催しました。また11月末に毎年やっておりますボランティアフェスティバルで大阪公立大学のボランティアの学生さんをお願い

をして、昼の時間でクイズをやり、多少の予算の許す範囲内でクイズの景品として防災グッズをお配りしたのですが、かなり好評でした。当初の予定を超える80名の参加がありました。防災に関するイベントで子どもたちとか若い親御さん向けでは、ある程度ゲーム感覚があって、楽しくできるようにすれば、かなり参加していただけたと感じました。

それだけの開催ではなくて、何かのイベントに付随して防災のコーナーも設けるというのが関心を引き起こす1つの方法だと思います。我々ボランティア連絡会も、今年度も防災講座を1回開催するのと、11月末のボランティアフェスティバルでももう一度大阪公立大学の学生にお願いして、いろいろな楽しい方法で防災の啓発をしていただこうと思っています。去年、防災グッズの展示も出しましたがアンケートで、誰も人が付いていなくて、聞きたいことがあっても聞けなかったということがありましたので、今年はちょっと反省をしまして、ボランティアで何名か担当の方を置けるようにと、防災士会の皆さんにお願いしております。そういった形で我々ができることや地域の資源はたくさんありますので、行政の皆さんも、地域の資源を有効に活用していただければ、いいものができるのではないかと思います。

○加我座長 ありがとうございます。多分前にもあったかと思うので、地域資源をうまく活用して、ある意味利用していただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○羽根構成員 防災は楽しくという話で、学生さんも引っ張りだこだと思うのですが、学生さんによる防災ブースを地域のお祭りや北区交流祭など楽しい場所に持ってきたら、多くの人の目にも触れるから良いかなと思うのと、毎年9月にマンションでお祭りをしているのですが、防災グッズを売りに業者に来てもらおう企画を考えています。楽しいお祭りの中に取り入れることや人の集まるところに出ていくことが大事かなという気がします。

○加我座長 ありがとうございます。

○坂江構成員 「みんなで防災ホームページ」を拝見しましたがけれども、本当に充実した内容で素晴らしいと思います。子どもの頃から繰り返し学んでいくということで、サバイバルクイズ防災クエストなんかは、本当に小さい子でも分かるような楽しい、親しみやすい絵柄で作られていて、とても良いなと思いました。

スマートフォンでPDFファイルが見にくいので、HTML化で見やすくということですが、このサバイバルクイズみたいなものは、むしろPDFにして置いておいてもらったら、もうそのままスライドとしてプロジェクターで投影して、それでちょっと面白いイベントができるのではないかなと感じました。ですので、もちろんスマホで見やすい状態にするというのは大切ですが、もう一歩踏み込んで、それを別のところでも上手に使えるかということを考えていくと、より良いものになるのではないかなと思いました。

防災情報の発信というお話で、私が実際にすごくいいなと思ったのは、北花田のイオンモールの無印良品の防災用品のところの売り場に子育てファミリーのための防災ブックが置い

てあって、これはすごくいいなと思いました。売り場の発信力、目に入る力というものはすごいものがありますから、防災用品を買おうと思うけれど、何にしたらいいかわからないという時にこれがあるというのは、本当に理想的な情報の出し方だなと思いました。

あと、北区子育てフェスタでも防災のコーナーがありましたけれども、そこでも結構子どもを連れた方がご覧になっていて、先ほどからおっしゃっていますけど、楽しいところに防災の情報を出していくというのは、とても素晴らしいことだと思います。

今後の展開として、ホームページのQRコードのステッカーを掲示ということを書いてくださっていて、これもすごく良いことだと思います。防災に関してなかなか意識が持てない理由として、自分事として具体的に想像できないということがあると思うのですが、例えば「北区の何とか町に震度何の地震があった場合、このような被害が想定されます」ぐらいまでを言われたら、「何とか町は私が住んでいるところ」というふうに自分事だと考えやすいと思います。そういう短いティップスというのですかね、ちょっとしたヒントや考え方のアドバイスになるような一言を添えてQRコードを掲示すると良いと思います。例えば子どもを育てている方が多いところに出すのであれば、「災害で避難するときに抱っこひもがなかったらどうする」と書いてあったら、「ちょっと待って、どうしよう」となる、ちょっと立ち止まって考えるということができると思うのですよね。例えば、スーパーの飲料水売り場に、「2018年の西日本豪雨では水道が復旧するまでに何日かかりました」と書いてあったら、「それはいけないな、何日分ぐらいを買っておこうかな」と、そういう気持ちが生まれてくると思います。ちょっとした1文でいいので、情報と一緒にQRコードを出していくことをしてみるのはいかがでしょうかと思いました。

○加我座長　ありがとうございます。様々なアイデアをいただきましたので、今後取り組んでいただければと思います。

では、預かっている案件がもう一つございますので、先に進ませてください。「次期ビジョン策定に向けたアンケート調査について」、事務局より説明をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○事務局（増川）　それでは、資料4をご参照ください。現行の北区みんなのまちビジョンが終期を迎えます令和8年3月に次期ビジョンが策定できるよう、来年度、令和7年度は北区政策会議などで次期ビジョンの内容について検討し、その前段階として、今年度、令和6年度は検討材料とする北区民へのアンケート調査を実施いたします。秋頃に調査が実施できるよう、構成員の皆様からのご意見を踏まえて、アンケート調査内容を確定させたいと考えております。

本日はご意見を頂戴するのに十分な時間がないため、調査手法と質問事項についての説明までとさせていただきます、後日メールでご案内させていただく方法でご意見をお教えいただきたいと思います。

それでは、調査手法についてご説明いたします。効率的に回答を集められるよう、前回、令和元年度の実施時から調査手法を変更する予定です。1つ目が、郵送アンケートに加えて、WEBモニターによるアンケート調査を実施予定です。民間の調査会社に登録するWEBモニターから北区内居住者を限定し、実施するものです。郵送アンケートに比べ、郵送や印刷が省略でき、迅速に多数の回答を集めることが可能です。

2つ目が、郵送アンケートの回答方法としまして、前は返信用封筒のみとしていましたが、回答表に掲載のQRコードからできるWEB回答を加えて、回収率を高めたいと考えています。

続きまして、設問内容についてのご説明です。同じくビジョン策定の検討材料にするために実施しました令和元年度のアンケート調査をベースとしまして、5年後の現在との経過を確認したいと思います。ただし、次期ビジョンをより実効性のあるものにできるよう、設問の改善を図ります。前回の質問表に修正点を吹き出しで追記しておりますのでご覧ください。最初に、「住みたくなる街、ずっと長く住みたい街」の参考にするため、北区内に居住するきっかけ、理由について質問を新設いたします。

次に、問2・問3において、抽象的な選択肢の回答が大半を占めまして、有効な分析ができていなかったため、選択肢を具体的なものに改めます。

次に問4では、北区の評価を聞くのですが、選択肢1・2・4は、誰のどんな取組かが明確でなかったため、それぞれ内容を変更します。

次に問5では、北区の魅力を聞いているのですが、魅力発信の取組に生かすため、「あなたが知りたい北区の魅力に関する情報は何か」を問う内容に変更いたします。

問6の、「日常感じている課題」の設問は、問7の「今後さらに充実するとよいと思うのは」の設問と回答結果がほぼ同じ傾向であるため削除します。

問11・14・18では、それぞれやらない方を対象にやらない理由を聞いているのですが、取組改善の参考とするため、やりたくなる条件とは何かを全員に聞く設問に変更します。

問15では、区役所からの情報に関心を持っているかを問うだけでなく、区役所からのどんな情報に興味があるのかまでを聞く内容に変更をいたします。

問16の区役所からの情報入手元の設問に、各種SNSの選択肢を追加いたします。

問19は、区政策会議の認知度を聞くのではなく、めざす将来像が共有できているかを確認する質問に変更予定です。

以上が事務局で検討しています設問の改善点になります。

次期ビジョンの策定に向けたアンケート調査の手法と設問内容につきまして、事務局からの説明は以上です。

○加我座長 ありがとうございます。申し訳ありませんが、時間の都合ということもありますが、ちょっと細かな点もございますので、これについては、お持ち帰りいただいて、もう一

度確認をいただいて、区にご連絡いただいて、修正等をしていくということですのでご協力をよろしくお願いします。

あともう一つ、参考資料４で、令和元年度北区まちづくりアンケート集計結果というのがございます。これが先ほどご紹介いただきました、前回というふうに言っていたものになりますかね。

○事務局（増川）　そうです。

○加我座長　集計結果がございますので、それも一度見ていただきまして、前回での到達点といますか、区民の方々が感じになっていることということが、これによってご確認いただけたと思います。さらに今回、次期ビジョンに向けてということで改善をしていく、特に取組をしない方に、「なぜしないのですか」ということを聞いていたというのは、「どういう条件であればやってみたいと思いますか」に変更してということで、よりポジティブというのですかね、より次の施策とか取組に参考になるようにということで検討してございますので、ご確認いただければと思います。

あともう一つ、問１９ですね。「あなたは区民評議会のことを知っていますか」、ここに来ていただいて傍聴していただいて、皆様のご意見を聞いていただくというのも１つの情報発信の場になろうかと思いますが、区政策会議を知ってもらわなくても様々な北区が考えている将来像や、考えている取り組むべき課題のことを知ってもらって、いろいろな暮らしに活かしていただくということだと思しますので、おっしゃるとおり、問１９のこの区民評議会の認知度は必要なかったかなと思います。

では、申し訳ありませんが、時間の都合もございまして、少し細かなことが中心になろうかと思しますので、このアンケートの調査項目については、もう一度ゆっくりご覧いただきまして、区にご意見をいただければと思いますので、どうぞご協力をよろしくお願いします。

それでは、本日お預かりしております議題は全て終了しましたので、事務局に進行をお返しします。よろしくお願いします。

○事務局（増川）　構成員の皆様、本日はありがとうございました。本日いただきましたご意見を参考に、子育て・防災の取組をより効果的に進めてまいります。

また、次期ビジョンに向けたアンケート調査については、後ほどメールでご案内をお送りしまして、６月末までご意見を受け付けさせていただきたいと思います。頂戴したご意見を踏まえ、事務局でアンケート最終案を作成しまして、加我座長にご確認いただいた上で実施をしてまいります。

そして、来年２月頃に開催予定の第４回会議で、調査結果の報告をさせていただきたいと思しますので、よろしくお願いいたします。

それでは次回は、ビジョンの将来像「いろんな楽しいでつながる街」の実現に向けた区民活動の活性化についてご意見をいただきたく思います。令和６年９月、１０月頃の開催を予

定しておりますのでよろしくお願いいたします。

事務連絡は以上となります。

それでは、本日の北区政策会議を終了させていただきます。

本日はありがとうございました。